

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月19日

【評価実施概要】

事業所番号	3770103111		
法人名	有限会社 國村不動産		
事業所名	グループホーム愛の里		
所在地	香川県高松市上福岡町2005番地11 (電話)087-837-2188		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年5月30日	評価決定日	平成20年6月19日

【情報提供票より】(20年4月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月24日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤	16人 非常勤 2人 常勤換算 8.45人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 3階建の2階～3階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	18,000円	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり			1,200円

(4) 利用者の概要(4月15日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	4名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	57歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高松厚生クリニック、クワヤ病院、まつした歯科医院、ふじさわ医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

愛の里は3階建ての2階と3階にあり、1階には事務所・研修室・高齢者住宅が設置されており、行事、運営推進会議、研修、ボランティアの受け入れなどに利用している。
事業主は創設当初から地域住民に密着した支援活動を目指しており、施設行事を地域に開放することに取り組んでいる。入居者に対するケアについては”笑顔で1日を過ごしましょう”を掲げ入居者本位に管理者、職員が一体となって取り組んでおり、職員の笑顔や入居者の穏やかな表情、動作に現れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>事業所の多機能を活かした支援について、地域の人に気軽に立ち寄ってもらえる取り組みに、前向きな姿勢が感じられ今後に期待したい。災害対策については運営推進会議の協力を得て、地域との協力体制づくりに取り組みつつある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前は2ユニット同一の自己評価であったが、今回は各ユニットごとに作成している。特に今回は改善に取り組みたい項目が多く出されており、これは職員全員で細かいところに気付き、現状に満足することなく向上しようという意気込みが感じられ、さらなる発展を期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、行事報告や生活状況の報告などに対して、運営内容の検討や意見を聞いている。また、新しく取り組みたいことについては提示し、理解を得るようにしている(学習療法など)。災害時における地域住民の協力体制づくりについて、より具体化したものへの取り組みを進める予定であり、地域交流のさらなる発展に期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月間報告書で身体の状態、日常生活の様子などを詳しく報告しており、家族との連携がよくとれている。また、面会時には積極的に意見や希望を聞き、日々のケアに反映するように取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の行事に参加したり、近くの喫茶店でコーヒータ임을定期的に実施している。また、買い物や散歩に出かけ、地域住民との交流に努め、どてかぼちゃがきっかけになり近くの保育所との交流も実現しており、園児が訪問してくれたり、近くの公園で交流したり、馴染みの関係を深めるように努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初から地域に密着したサービスを念頭に、「共存共栄」を運営理念に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を具体化し、「笑顔で一日を過ごしましょう」と身近な言い方している。利用者に対しても自分に対しても、勤務終了時に笑顔でいられるということは一日が充実していた結果である。利用者の満足、自分に対する充実感など常に悔いのない一日が過ごせるよう努力することを、共有し実践に取り組んでいる。	○	「笑顔で一日を過ごしましょう」を仕事始めに声を出して言うことにより、日々確認し共有することにより、ケアの中で実践していく取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや行事に参加したり、自治会長の協力、助言により子ども会との交流に取り組んでいる。また、近所の喫茶店で定期的にコーヒータ임을実施している。	○	どてかぼちゃ作りがきっかけで、できたかぼちゃを近くの保育所に差し上げたことから、ハロウィンには園児が訪問してくれ、入居者との交流ができた。これを機会にさらに交流を深めていく取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を理解し、スタッフ全員でミーティングをし気づいた点、改善点、今後取り組んでいきたいことなど話し合いユニットごとに検討している。今回、質の向上のために取り組んでいきたいという項目が増えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見(例:入居者の参加など)を検討し、家族の意見も聞き実践に移している。また、新しく取り組みたい学習療法などについても提示し、意見を求めたり理解してもらえるように取り組んでいる。	○	今後も運営推進会議で出された意見、希望について検討し、実践に移し質の向上に向けて、さらなる取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村との連携を密にし、よりよい運営ができるように相談、情報収集をしており指導も受けている。また、地域の公園の利用、夏祭りのちょうちんの借用など常に連携しながら取り組んでいる。</p>	○	<p>さらに地域との交流を深めていきたいという思いを実現するために、民生委員と連携を取るなど、市町と共にサービスの質向上への取り組みを期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月間報告書により体調、体重、血圧、通院受診時の状況などについて、また、行事や生活の様子などをアルバムにして送っている。受け持ち制を取っており、家族との関係もより密になっている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議にも家族として2名参加しており、意見をいただいている。今まで特に意見、苦情、不満など大きな問題は出ていないが、テレビの映りが悪いなど小さなことでもすぐに対応している。家族会や行事の機会にも聞くようにし、面会時にも声をかけ言いやすい雰囲気づくりに留意し、出された意見は運営に反映するよう前向きに取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来1人の退職者のみで、職員が定着している。外出や行事への参加時には、ユニットの交流や全職員が入居者について理解し、対応できるように取り組んでいる。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員個々の段階に応じた研修計画を立てており実施している。個人が進んで受けたいという研修については、勤務は休み希望で対応している。職員からの口腔ケアの研修希望があり、歯科衛生士による研修を実施し、日々のケアで実践している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会や研修で、一緒になった関係者との意見交換や見学に行くなど交流を持ち、サービスの質向上に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用に当たっては、事前の見学や行事に参加してもらうなど、本人、家族共に納得して利用できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、洗濯、掃除など日常生活を共にしながら支援が行われている。利用者が椅子の片付けなど自ら率先して動いている。そして、職員は「ありがとう」と声をかけている。	○	受け持ち制を実施しているため、さらにアセスメントを深め、より細かいことに気づくと考えられるので、気づいたことを共有して、支えあう関係を深めていくことを期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の嗜好品、酒、タバコなどについては希望や意向を聞き、家族、本人、医師と相談をして取り入れるよう努めている。また、暮らし方の希望で人と一緒にいるのが嫌いという利用者には、これを尊重し居室のドアは開けた状態で、自室でテレビを見るなど個別に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニットで月一回のミーティングを開催し、家族の意見、介護支援専門員、本人など関係者が意見を出し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調、行動などの変化時には、ミーティングにより臨機応変に計画の見直しをしている。	○	今後も見直し期間にとらわれず、変化に応じて本人、家族、職員など関係者とよく検討をして、よりよい介護計画が立てられるような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望、利用者の状況により通院支援をしている。理髪については、地域の業者がホームまで出向いて安価で対応してくれている。クリーニングに出したいという希望に対しては、近くの店へ同行している。1階の研修室を利用してフラダンス、オルガン演奏、オカリナなどボランティアの受け入れを多くしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医での受診を支援している。受診については、本人や家族と話し合って適切な医療が受けられるよう支援し、訪問リハビリなど本人や家族の希望があれば、主治医の許可を得て対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の在り方については本人、家族の希望に沿えるよう取り組んでいる。医療度の高い人に対しては主治医と話し合い、鼻腔栄養を中止しホームに帰り、食事介助に時間をかけて安全にゆっくり対応している。	○	終末期の対応マニュアルなどを作成して、事業所で「できること、できないこと」を見極め、チームでの支援に向けて、医療機関と連携が図れる体制づくりが望まれる。また、全ての職員が不安なく対応できるように、勉強会を持つなどさらなる取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを尊重し、言葉かけや対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムや体調に合わせて、希望に沿った暮らしが提供できるように取り組んでいる。居室がいいと言う人には、希望を尊重した対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューについて話し合ったり、食事中に食材についての話題を提供したり、楽しく食べられるように取り組んでいる。盛付、配膳など一緒にし、動ける人はお膳を取りに行き下膳もしている。	○	食事介助を必要とする人が増えており、一緒に食事がしにくい状況にある。できるだけ共に食事ができるような支援が望ましい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は決められているが、今のところ特に時間の希望も出ていない。また、行事などにより入浴時間が前後することもあるが、入居者を尊重し時間を調整して、入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除が得意な人、椅子の片付けを卒先してしている人などがいる。また、園芸が好きな人は職員と畑に出かけているなど入居者が自然に動いている姿がみられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前中に近所を散歩しており、外へ出ると気持ちがいい、食事が美味しいと話している。	○	個人の希望や嗜好にあわせて、少人数での外出に取り組んでいきたいという思いを大切に、今後実践に向けての取り組みを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は施錠しないように取り組んでいるが、2階、3階の施設で、エレベーターの使用については入居者が操作できないようになっている。	○	安全性から考えると、やも得ないことと思えるが、今後、入居者がエレベーターをボタン一つで呼べるような工夫の取り組みを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、防災訓練を実施している。	○	災害時には近隣の協力が必須と考えられるので、運営推進会議で意見や協力を得て、今後具体化した取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により、一人ひとりの状態に応じたメニューをつくっている。個別性を尊重して好みの飲物を提供したり、かまって欲しい人には、寄り添って声かけすることで、残っていたものを食べている状況も見受けた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファ、畳の部分もあり、好きな場所でくつろいでいる。浴室、トイレなど安心して心地よく使えるように配慮され、特に清潔に関しては十分な取り組みをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅を訪問し、住み慣れた部屋に近づけるように使用していたたんす、愛用の椅子などを使用できるよう支援している。仏壇を置いている人もあり、居心地よく過ごせるような取り組みをしている。		